

### 編輯室の内外

産業振興土木事業が計畫され、失業救済などと言ふやうなケチな文字は吹き飛ばされたやうだ。道路費總額二億一千萬圓、會

て原内閣時代に建てられた三十年計畫の二億八千萬圓に比較すると、零壞の差がある之が眞に實現さるゝものなら全國々道の重要部は大體改良さるゝことゝなる。併し夫れが出来得るかナ。

道路會議の復活、大道路事業を策する爲には當然のこと、田中事務官が主張して己まなかつた關門國道の架橋も漸く認められて、調査費豫算が是認せられ、こゝのところ路政界には春が來た型だ。

土木部課長の交代も漸く鼻が附いたらしい、併し其の跡を見ると、唯だ異動せしめたと云ふだけで何の新味もなければ改革味もない平凡なものだ、是位で部課長の氣持を轉換せしめたものとすりや世の中は樂なものだ。

幹事の三浦七郎君が學位を得たことは前號に報じたが、此度は又幹事の藤井眞透君が工學博士となつた。是等のことは我國道路技術が進歩發達した顯れで欣快に堪えない、加之兩君が本誌に執筆して呉れてゐる關係からすりや之が爲に本誌の聲價を一層擧げしむることにもなる。切に兩君の自重を祈る。

理事牧博士、眼病の爲に暗黒裡に世を送ること二年半、同人は開眼の一日も早きこ

とを祈つたのであつたが、手術宜敷を得て昭和七年の新春を迎へると同時に開眼した、氏も亦本紙の爲に更に執筆さるゝこととなつた。慶賀に堪えない。

× × × × ×

本誌定價 五十錢  
一ヶ年分 金六圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内  
發行所 社団法人 道路改良會  
東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六  
發行兼編輯者 小島 效  
東京市小石川區諏訪町五六  
印刷所 常磐印刷所  
印刷者 堀江關武